

# 整備機器

## 新商品

### 小野谷機工

ロードサービスカー

## 「RSC Type-1N」

# 利便性を向上したロードサービスカー

小野谷機工はこのほどロードサービスカー「RSC Type (タイプ) -1N」を市場投入した。新モデルは発電機の配置を縦置きにすることにより、メンテナンス性を大幅に向上したほか、今後の普及が見込まれているトラック・バス用超扁平タイヤへの対応も視野に入れて開発。さらに、ユーザーからのニーズに応じて安全性確保や効率化のための様々な工夫を取り入れたことも特徴だ。同社の営業や開発、製造といった各部門が一体となって完成させた新型ロードサービスカーを取材した。

小野谷機工はロードサービスカーの故障の一つに「横置きの場合、周囲が狭く日常点検がしにくい性能を進化させてきた。今回発売した「RSC Type-1N」は、発電機の故障は劇的に減った」とそのメリットを話す。スペース面でも有利になるといふ。横置きした場合と比べて奥行きは半分ほどで済み、容積も約3倍に広がった。安全性、作業性、さらに軽労化が絶対条件であり、この4つを追求して開発した」と話す。

まず、大きなポイントは発電機の搭載方法を縦置きにアレンジしたことだ。松塚氏は「ロードサー

ビスカーの故障の一つに「横置きの場合、周囲が狭く日常点検がしにくい性能を進化させてきた。今回発売した「RSC Type-1N」は、発電機の故障は劇的に減った」とそのメリットを話す。スペース面でも有利になるといふ。横置きした場合と比べて奥行きは半分ほどで済み、容積も約3倍に広がった。安全性、作業性、さらに軽労化が絶対条件であり、この4つを追求して開発した」と話す。

また、発電機を縦置きにしたことで通路が確保でき、シャッター内部に備品などをより多く積めるようになった。ボックス内には自動エア充電機、ホースリールをはじめ、インパクトレンチ、ソケット、工具類、長尺レバーなど多くの物を搭載できる収納棚を設置した。

さらに、レイアウトの最適化も図った。従来は正面にエア充電機があり、両サイドにエア管理、電源管理ボックスが配置されていた。一

方、新モデルではアナログメーターを正面から確認できるように充電機を壁側に移動して作業場からの視認性を高めている。

この工夫はマイナスイドライバーなどで小石を除去している光景を見たことからヒントを得て改良を加えたという。さらに、ここに紹介した「RSC Type-1N」の機能の多くは、顧客とコミュニケーションを図り、そこから出てきた様々なニーズを同社の様々な部門が一体となり作り上げてきたものだ。松塚氏は「お客様の要望を聞くと、『ビットに限りなく近い状態にして欲しい』という声が多い。これは一言で言うと便利

「RSC Type-1N」は利便性を高めた点以外にも一つ大きな特徴がある。それはトラック・バス用シングルタイヤとTPMS (タイヤ空気圧監視システム) 装備車両の普及を見据えた機能だ。

シングルタイヤはTPMSとセットで装着されていることが多いため、作業に必須のドライエ

アが全経路に供給される。これまでのオプションだったが、今回は標準装備し、コンプレッサーは従来の7・5馬力から標準で10馬力にパワーアップさせた。

ドライエアの供給に関して松塚氏は「温った空気をタンクに取り入れるとコンプレッサーが動かない、あるいは各機材を水で壊してしまう可能性があった。新モデルは水分が無いので壊れるトラブルが減った。冬場のトラブルも少なくなっている」と説明する。

また、チェンジャーとセーフティケージは余計な力を入れなくても簡単に組み立てることができるようになっており、スピーディーな作業に貢献できる。松塚氏は「現場では時間との戦いとなる。高速道路などは危険性もあるので、サッと組み立てられることが重要」と話す。



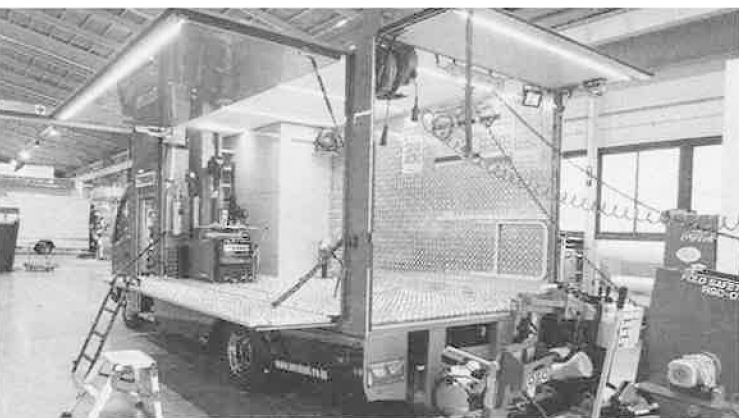
発電機などのレイアウトを見直し、メンテナンス性を高めた



より多くの工具を搭載できるように工夫した



床面は滑りにくく、汚れにくいアルミ縞板貼りに



さらに、レイアウトの最適化も図った。従来は正面にエア充電機があり、両サイドにエア管理、電源管理ボックスが配置されていた。一



松塚氏「RSC Type-1N」は利便性を高めた点以外にも一つ大きな特徴がある。それはトラック・バス用シングルタイヤとTPMS (タイヤ空気圧監視システム) 装備車両の普及を見据えた機能だ。

シングルタイヤはTPMSとセットで装着されていることが多いため、作業に必須のドライエ

アが全経路に供給される。これまでのオプションだったが、今回は標準装備し、コンプレッサーは従来の7・5馬力から標準で10馬力にパワーアップさせた。

(林 岳史)